

たんの吸引ヒヤリングについて

平成15年2月10日(月)

光明荘ヘルパーステーション

中垣 貞子

(訪問介護の現状及び評価について)

① ALS患者への訪問は、どのように行われているか。(頻度、内容)

別紙

② 養成課程のなかで、医療面での教育をどの程度受けているのか。

- ・ 難病患者の養成研修のなかでは、たんの吸引や人工呼吸器の装着が必要になってくる。医療ニーズが高くなる。それに伴い本人や家族の精神的な不安や、社会的な問題などが起こる。患者の心理、家族の心理などの理解が必要である。
- ・ 他に、保健所主催の「ALS患者の在宅ケアの実際」という講習があった。栄養管理、呼吸管理、コミュニケーション方法の工夫、精神的ケア、介護者への援助等、が重要である。

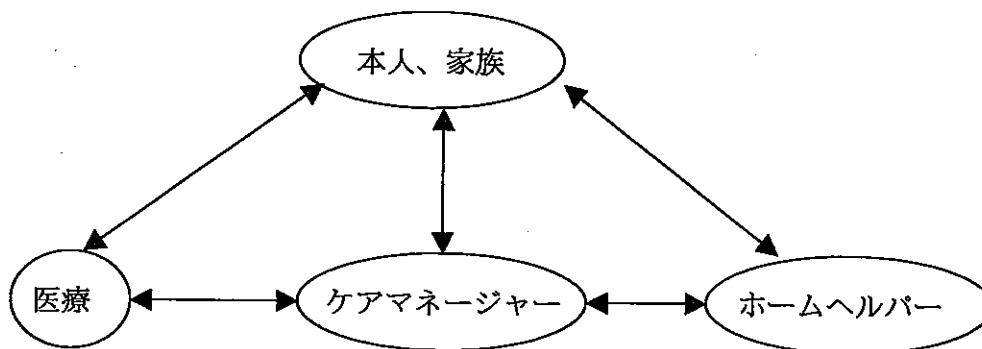
③ 要介護者は固定されているのか。

担当ヘルパー7人固定	光明荘ヘルパーステーション
担当ヘルパー5人固定	ひかりの園ホームヘルプサービス
担当ヘルパー2人固定	ファミリーケア
担当ヘルパー1人固定	サトウコーポレーション (家事援助)

(他職種との連携について)

① 医療との連携は、どのように行われているのか。

ケアマネージャーが中心になって連携が図られている。



- ② 在宅 ALS 患者の療養生活の質の向上を図るために、訪問看護師等医療職に対して、どのようなことを期待するか。
- ・他の ALS 患者の情報を教えて欲しい。
 - ・医療行為だけでなく、外出の付き添いなどの生活支援の援助も行えるようになれば良いと思う。
 - ・休日や祝日にヘルパーはサービスに入っているが、何か起こった時のために、いつでも連絡すれば、対応して欲しい。
 - ・在宅 ALS 患者に対する訪問看護師等医療職の訪問制限の枠をはずして欲しい。

(ALS 患者に対するたんの吸引について)

- ① たんの吸引に関する危険性をどのように考えるか。
- ・たんを吸引しないことによる生命の危険性が高い。
 - ・たんを吸引することで、一次的な生命の危険性は低いが、二次的な細菌感染や粘膜を傷つける危険性がある。
 - ・第三者が行うことで、責任が問われる。
 - ・たんの吸引については、単に吸引方法の指導を受けて、行えるような行為ではない。それを行うことによって予測される危険性等など、医学的な知識も同時に習得しなければ出来ない。
- ② 訪問介護で十分な対応できると考えるか。
- ・医療ニーズが高くなっていくので、無理と思う。
 - ・生活を支えるために、ヘルパーや看護師だけでなく、インフォーマルな支えも含め、できるだけ多くの人に関わりを持たないと、家族の負担は減らないと思う。

ALS患者への訪問

光明荘ヘルパーステーション

	~8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
月		ひかり 訪看		訪看		光明荘		ひかり		ファミリア			ファミリア	
火		訪看		光明荘		訪看	サトウ	訪看		光明荘			光明荘	
水		ひかり 訪看		ひかり		ひかり		ひかり		ひかり			ひかり	
木		訪看		光明荘		光明荘		訪看		光明荘			光明荘	
金		ひかり 訪看		光明荘		ひかり		訪看		光明荘			ファミリア	
土						光明荘		光明荘		ひかり			ひかり	
日														

身体介護 0.5H 排泄介護、手足の軽い運動、配膳、後片付け、その他、
 身体介護 1H 排泄介護、手足の軽い運動、着衣交換、後片付け、臥床介助
 複合型介護 1.5H 1H 排泄介助、手足の軽い運動、調理、配膳、

第一土曜日 13時のみ 15:30~18時 ファミリアケア
 第三土曜日 13時 15時、

訪問診療 第一土曜日 泉谷クリニック、14時頃
 訪問診療 第三火曜日 山田ドクター、14時頃